

～タイトル～

「教員基礎探究」学校実習Ⅰ「北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程」が実施されました。

～本文～

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム（前半：『教員基礎』、後半『教員基礎探究』）」を北海道教育委員会と連携して実施しています。釧路校でも、2023 年度より実施しております。

6 月 10 日（月）と 13 日（木）に、北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程での学校実習が実施されましたので、ご報告します。詳細は、以下の PDF 版記事をご覧ください。



第 2 回、第 3 回「教員基礎探究」は、北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程での学校実習が実施されました。第 2 回、6 月 10 日（月）は、オリエンテーションと配属学級（3 年生）での自己紹介、清掃活動への参加、授業観察が行われました。授業の中では、児童と関わる機会を設定してもらい、児童を支援したり、交流する経験をしました（写真①～⑥）。

観察後、理科担当の先生から理科の授業づくりについての説明を受け、13 日（木）に実施する理科の授業について検討しました。今回の授業は、教科書の内容とは別な内容を、特別な授業として実施しました。参加した生徒は、事前に実施してみたい内容や授業の流れを考えてきていたので、それをもとに具体的に考えていきました（写真⑦）。初めての授業構想でしたので、授業の中での児童の反応がわからずに苦労した場面もありましたが、グループごとに話し合いながら授業づくりを進めました。

第 3 回、6 月 13 日（木）は、配属学級で朝の会への参加、授業観察が行われました。授業観察では、音楽の授業と算数の授業を観察し、教える立場を視点として記録をとりながら、気づきをまとめていきました。また、休み時間や給食時間は児童と一緒に過ごし、児童理解を深め、人間関係づくりを行いました（写真⑧～⑫）。

5 時間目には 3 年 1 組と 2 組に分かれ、考えてきた授業の実践を行いました。1 組は、「コマをより長く回すための工夫」をテーマに、①芯棒の高さを調整することで「重心」に着目した実験、②コマの直径を大きくすることで「回転の慣性」に着目した実験を行いました（写真⑬）。手作りのコマであったため芯棒の位置がずれたり、児童の回し方によって回る時間が変わったりと想定していなかった反応もありましたが、全体の前でやり直してみるなど工夫しながら対応していました。児童の反応を事前に考えておく大切さを学んでいました。

2 組は、「水の性質」をテーマに、①雲のでき方、②表面張力の実験を行いました（写真⑭）。①雲のでき方では、ペットボトルの中にアルコールとスプレー、水を入れ気圧の変化で雲ができる場面を児童に経験させました。②表面張力の実験では、コップ一杯に水を入れた状態で 10 円玉をコップに入れていくとどうなるか予想させた上で、実際に入れ、水が表面張力で盛り上がっている部分を確認することで、確かめました。最後は、2 つの実験のまとめとして、どちらも水の性質を生かした実験であることを伝えました。実際に児童全員が実験してみることが大切に取り組み、興味・関心をもたせることを意識していました。

授業後には、各学級でお別れ会を開いてくれました。（写真⑮、⑯）児童と関わることの楽しさややりがいを感じることができました。

帰りの会に参加した後は、担当教諭と観察した授業のポイントや実施した授業についての振り返りを行いました。実際の先生方の話から一段と学びを深めることができました。



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



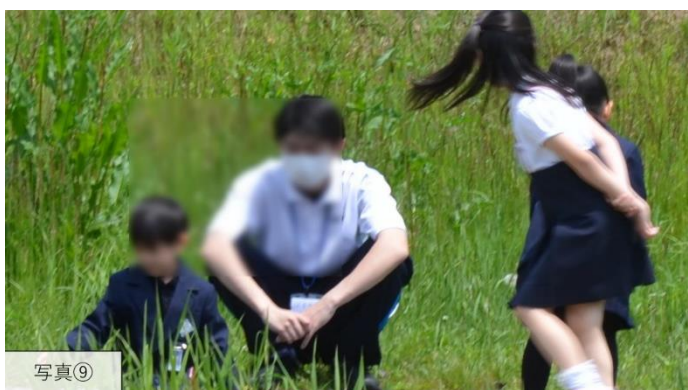
写真⑥



写真⑦



写真⑧



写真⑨



写真⑩



写真⑪



写真⑫



写真⑬



写真⑭



写真⑮



写真⑯